

「(仮称) 九十九里沖洋上風力発電事業計画段階環境配慮書」  
に対する環境大臣意見

本事業は、株式会社ユーラスエナジーホールディングスが、千葉県山武市、山武郡九十九里町及び山武郡横芝光町の沖合において、最大で出力450,000kWの風力発電所を設置するものである。

今日の地球温暖化の危機的状況において、「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」(令和3年10月22日閣議決定)では、「2050年カーボンニュートラルを実現するために、再生可能エネルギーについて、主力電源として最優先の原則の下で最大限の導入に取り組む」こととしている。そのため、風力発電を含む再生可能エネルギーの最大限の導入を進めるに当たっては、適切なコミュニケーションの確保や環境配慮、関係法令の遵守等を通じた地域との共生を進めていくことが必要である。

本事業の事業実施想定区域(以下「想定区域」という。)の海域は、海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律(平成30年法律第89号)に基づき、海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域の指定に向けた準備に着手する「有望な区域」に整理されている。

一方、想定区域及びその周辺には、「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月環境省)に基づく絶滅危惧ⅠA類に分類されているウミスズメ等が生息している可能性があるほか、想定区域及びその周辺は鳥類の主要な渡り経路となっている可能性がある。

以上を踏まえ、本事業計画の更なる検討に当たっては、以下の措置を適切に講ずるとともに、それらの検討の経緯及び内容については、方法書以降の図書に適切に記載されたい。

## 1. 総論

### (1) 対象事業実施区域等の設定

対象事業実施区域の設定並びに風力発電設備及び附帯設備(以下「風力発電設備等」という。)の構造・配置又は位置・規模(以下「配置等」という。)の検討に当たっては、現地調査を含めた必要な情報の収集及び把握を適切に行い、計画段階配慮事項に係る環境影響の重大性の程度を整理し、事業計画等に反映させること。

### (2) 最新の知見の反映

本事業の調査、予測及び評価については、最新の知見、先行事例の知見及び専門家等の助言を踏まえ、適切に実施すること。

### (3) 環境保全措置の検討

環境保全措置の検討に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

#### (4) 関係機関等との連携及び地域住民等への説明

本事業計画の今後の検討に当たっては、関係機関等と調整を十分に行い、方法書以降の環境影響評価手続を実施すること。また、地域住民等に対し丁寧かつ十分な説明を行うこと。

## 2. 各論

### (1) 鳥類に対する影響

想定区域及びその周辺には、「環境省レッドリスト 2020」に基づく絶滅危惧 I A 類に分類されているウミスズメ等が生息している可能性があるほか、想定区域及びその周辺は鳥類の主要な渡り経路となっている可能性があることから、本事業の実施により、風力発電設備への衝突、移動の阻害等によるこれら鳥類への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、専門家等からの助言を踏まえ、鳥類について適切に調査、予測及び評価を行うこと。また、その結果を踏まえ、環境保全措置を講ずることにより、鳥類への影響を回避又は極力低減すること。

### (2) 海生生物及び藻場に対する影響

想定区域には岩場が存在するとされており、当該岩場に岩礁性の海藻が生育している可能性並びに想定区域及びその周辺に藻場が分布している可能性があることから、本事業の実施により海生生物や藻場への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、藻場が存在する区域を明らかにした上で、藻場の改変を回避又は極力低減すること。また、工事中における水の濁り等による海生生物や藻場への影響について、専門家等の助言を踏まえ、適切に調査、予測及び評価を行うこと。さらに、工事中における水の濁り等により、海生生物の生息・生育環境や藻場への影響が懸念される場合は、環境保全措置を講ずることにより、海生生物や藻場への影響を回避または極力低減すること。